

「これからの学術情報システム」が目指すもの、  
「これからの学術情報システム」で目指すもの

これからの学術情報システム構築検討委員会

これからの学術情報システム構築検討委員会委員長  
小山憲司（中央大学）

# 目次

- はじめに
- これからの学術情報システム構築検討委員会の検討の経緯
- 「これからの学術情報システム」が目指すもの、  
「これからの学術情報システム」で目指すもの

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所と  
国公立大学図書館協力委員会との間における連携・協力の推進に関する  
協定書

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所（以下「甲」という。）と国公立大学図書館協力委員会（以下「乙」という。）は、包括的な連携・協力の推進にあたり、次のとおり協定（以下「本協定」という。）を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、甲及び乙が、総合目録データベースの構築、機関リポジトリの推進、教育研修などの事業を通じて構築してきたこれまでの連携・協力関係を踏まえ、昨今の学術情報の急速なデジタル化の進展の中で、我が国の大学等の教育研究機関において不可欠な学術情報の確保と発信の一層の強化を図ることを目的（以下「本目的」という。）とする。

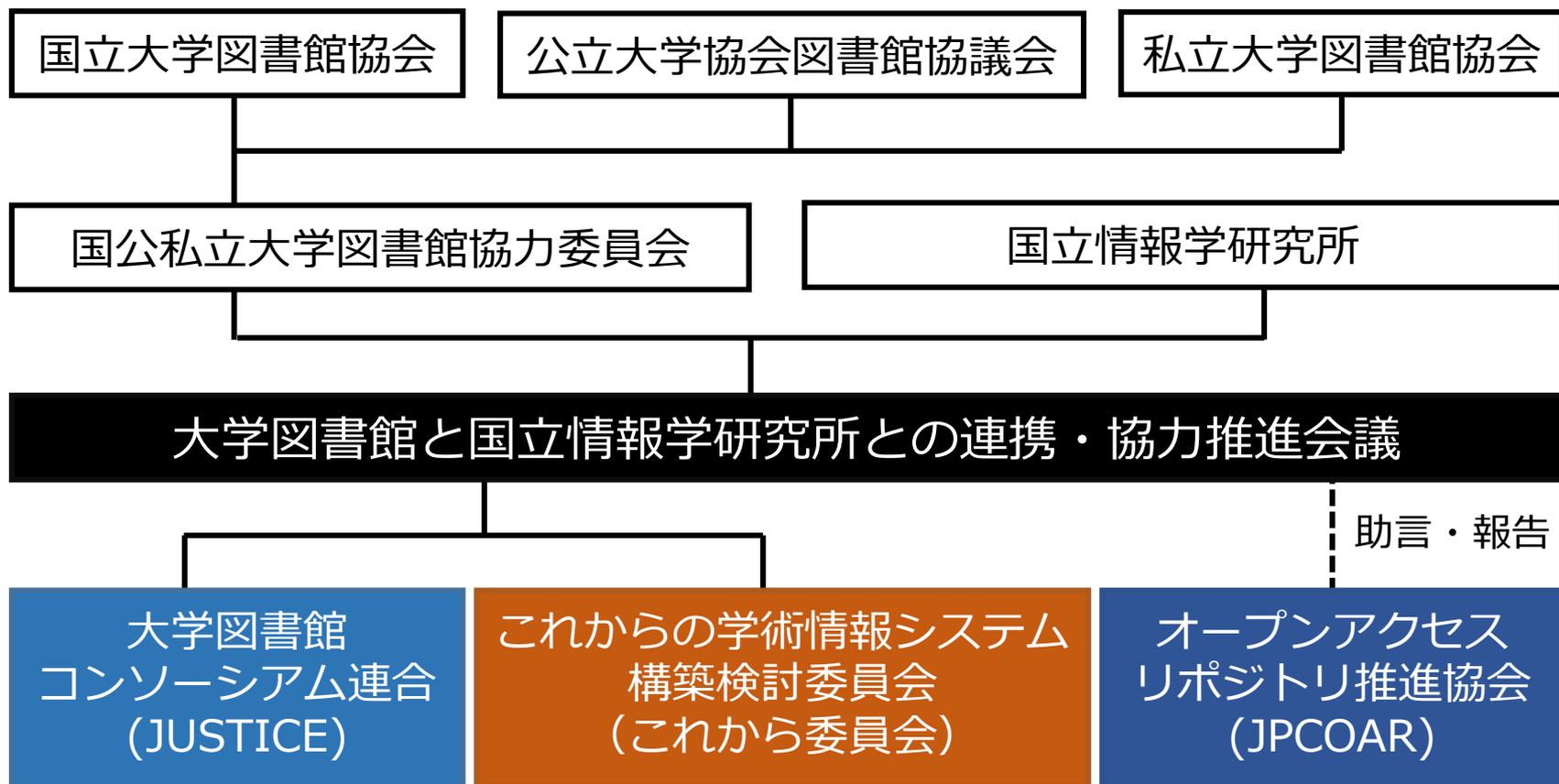
(連携・協力の推進)

第2条 甲及び乙は、本目的を達成するために、次の事項について連携・協力を推進する。

- (1) バックファイルを含む電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保証体制の整備
- (2) 機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築
- (3) 電子情報資源を含む総合目録データベースの強化
- (4) 学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成
- (5) 学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進
- (6) その他本目的を達成するために必要な事項

2 前項の事項について連携・協力を進めるために、甲及び乙は大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議を設置する。また、必要に応じて、この会議の下に、具体的な調査・検討及び事業等を実施するための組織を設置することができる。

# 検討体制の概要



（“オープンアクセスリポジトリ推進協会の概要”（[https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page\\_id=38](https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=38)）等を参考に作成）

## 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）

- (1) バックファイルを含む電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保証体制の整備

## オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）

- (2) 機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築

## これからの学術情報システム構築検討委員会（これから委員会）

- (3) 電子情報資源を含む総合目録データベースの強化

## 共通

- (4) 学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成
- (5) 学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進

# 目次

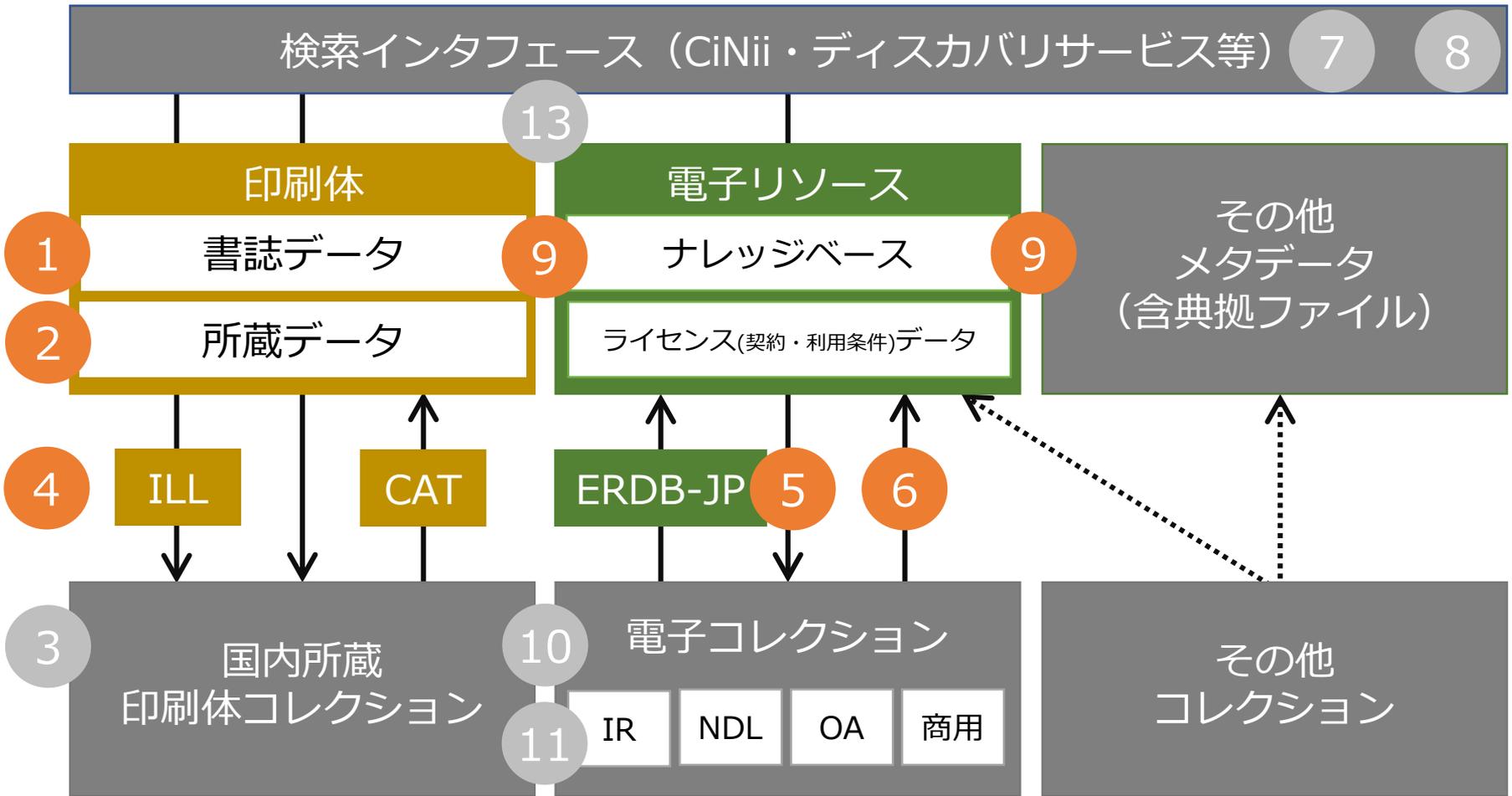
- はじめに
- これからの学術情報システム構築検討委員会の検討の経緯
- 「これからの学術情報システム」が目指すもの、  
「これからの学術情報システム」で目指すもの

# これから委員会における検討の経緯

委員会	電子リソース	目録システム
2012 委員会設置	ERDBプロトタイプ構築プロジェクト (-2013)	
2013		
2014	電子リソースデータ共有WG	
2015 「これからの学術情報システムの在り方について」	電子リソースデータ共有作業部会 ERDB-JP公開	NACSIS-CAT検討作業部会 「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（基本方針案の要点）」
2016		「基本方針」
2017	「電子リソース管理システムの利用可能性の検証について（平成28年度最終報告）」	「実施方針」

これからの学術情報システムに関する意見交換会2017

# 12 これからの学術情報システムの方向と課題



# 課題

## (1)統合的発見環境の提供

- NACSIS-CATの位置付け
  - ①共同分担目録：書誌データの利活用への参加／不参加
  - ②資源共有：所蔵データの利活用への参加／不参加
  - ③共同保存・利用（Shared Print）
- NACSIS-ILLの位置付け
  - ④紙から電子への移行
- 国内コンテンツのメタデータの捕捉
  - ⑤ERDB-JPの整備・運用
- 商用コンテンツのライセンスデータの管理・共有
  - ⑥JUSTICEとの連携
- 検索インタフェースの拡張
  - ⑦CiNiiはどこまでを対象とするのか
  - ⑧API公開

# 課題

## (2)メタデータの標準化

- 相互利用
  - ⑨メタデータのオープン化

## (3)学術情報資源の確保

- デジタイズ
  - ⑩印刷体資料の電子化
  - ⑪電子コレクションのアーカイブ対応

## (4)その他

- 協力体制
  - ⑫大学図書館、NII、NDL
- ⑬ログデータの活用

# 「これからの学術情報システムの在り方について」 (2015年5月)

平成 27 年 5 月 29 日

これからの学術情報システム構築検討委員会

## これからの学術情報システムの在り方について

「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」の下に設置された本委員会では、標記に係る状況を以下のように捉え、特に NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化を最重要課題として、国公私立大学図書館等が国立情報学研究所と連携して解決していくための方策を検討している。

### 1. 取り巻く環境の変化

学術審議会答申「今後における学術情報システムの在り方について」（1980 年）を受け、1985 年に総合目録データベースの形成と図書館間相互利用を目的とする「目録所在情報サービス」の運用が開始されて以来、今日までに学術情報を取り巻く環境に

# 「これからの学術情報システムの在り方について」 (2015年5月)

## 1. 取り巻く環境の変化

学術審議会答申「今後における学術情報システムの在り方について」(1980年)を受け、1985年に総合目録データベースの形成と図書館間相互利用を目的とする「目録所在情報サービス」の運用が開始されて以来、今日までに学術情報を取り巻く環境には様々な変化が起きている。特に、電子ジャーナルをはじめとした電子情報資源の普及によって、資料の流通・管理のあり方が大きく変貌したこと、また研究者、学生の情報利用や研究・教育のプロセスがますます電子的手段を前提とするものになっていることへの対応が急務となっている。

NACSIS-CAT/ILLを中核とした従来のシステムの軽量化・合理化を図りつつ、そうした変化への対応を行えるシステムの整備を目指す必要がある。

# 「これからの学術情報システムの在り方について」 (2015年5月)

## 2. 進むべき方向性

これからの学術情報システムに求められるのは、**ユーザーが必要とする学術情報を直接的かつ迅速に入手することができる環境**であり、これらを実現するために、以下の3点を推進する必要がある。

- (1) 統合的発見環境の提供
- (2) メタデータの標準化
- (3) 学術情報資源の確保

# 「これからの学術情報システムの在り方について」 (2015年5月)

## (1) 統合的発見環境の提供

電子情報資源・印刷体を区別することなく統合的に発見し、さらに、最終的に必要とする学術情報にアクセスできる環境を構築する

## (2) メタデータの標準化

標準化されたメタデータを利用することで、以下を推進する。

- ① 学術情報の発見可能性の強化
- ② 他機関(出版者, NDL, OCLC等)との連携による、メタデータの標準化と相互利用

## (3) 学術情報資源の確保

従来の印刷体に加えて幅広く電子情報資源を確保するとともに、過去の資料の電子化を推進し、活用を図る。

# 「これからの学術情報システムの在り方について」 (2015年5月)

## つまり

電子情報資源（＝電子リソース）の管理・共有を  
適切に行うためには

NACSIS-CAT/ILL等従来システムの軽量化・合理化を  
図りつつ、変化に応じたシステム整備が必要

# 「これからの学術情報システムの在り方について」 (2015年5月)

## 3. 本委員会の当面の課題

### (1) 電子情報資源のデータの管理・共有

電子リソースデータ共有作業部会（飯野勝則主査）

### (2) NACSIS-CAT/ILLの再構築（軽量化・合理化）

NACSIS-CAT検討作業部会（佐藤初美主査）

# これから委員会における検討の経緯

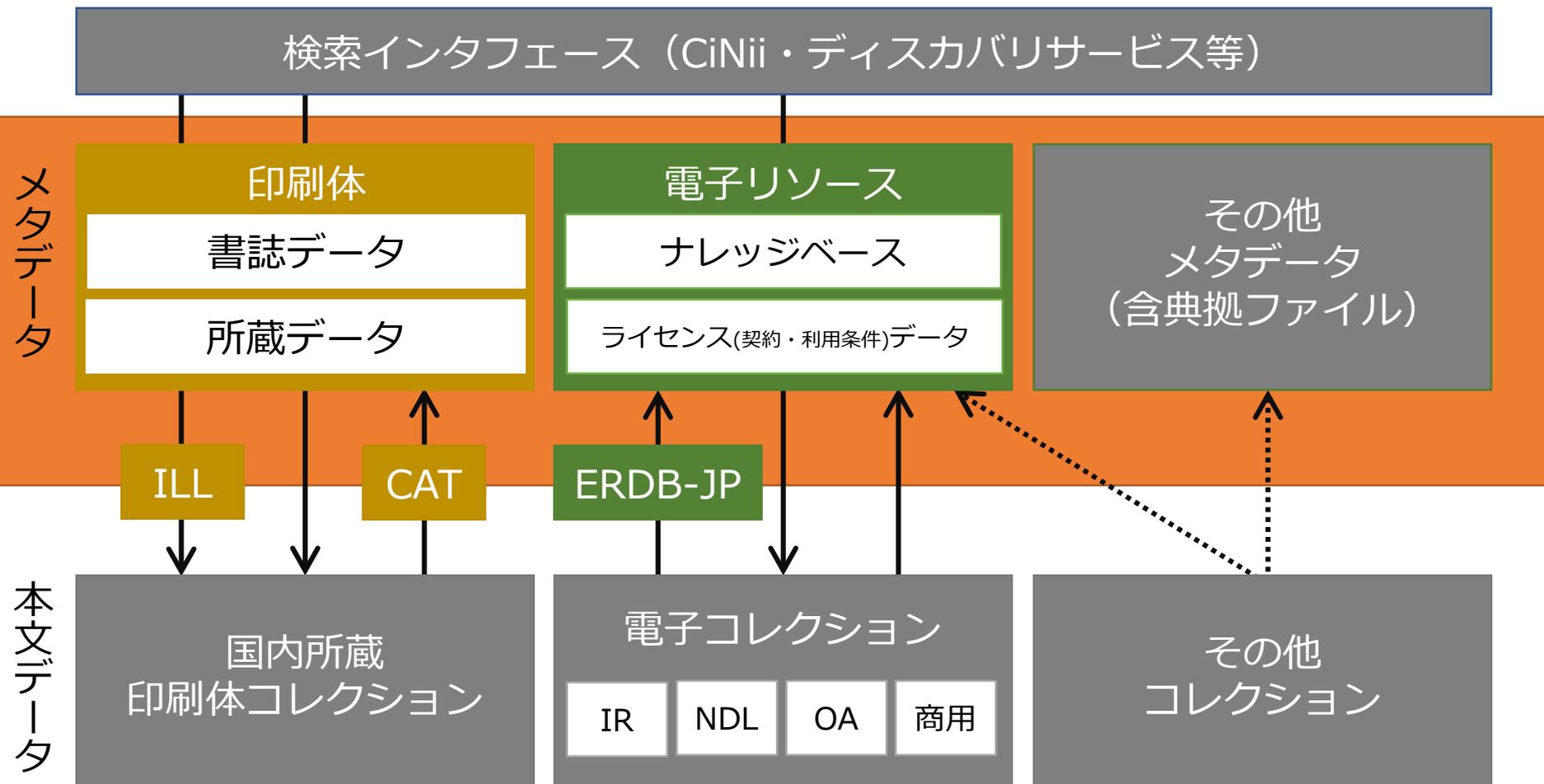
委員会	電子リソース	目録システム
2012 委員会設置	ERDBプロトタイプ構築プロジェクト (-2013)	
2013		
2014	電子リソースデータ共有WG	
2015 「これからの学術情報システムの在り方について」	電子リソースデータ共有作業部会 ERDB-JP公開	NACSIS-CAT検討作業部会 「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（基本方針案の要点）」
2016		「基本方針」
2017	「電子リソース管理システムの利用可能性の検証について（平成28年度最終報告）」	「実施方針」
2018	「2017年度最終報告」	「実施方針」からの変更 「最終まとめ」

これからの学術情報システムに関する意見交換会2017

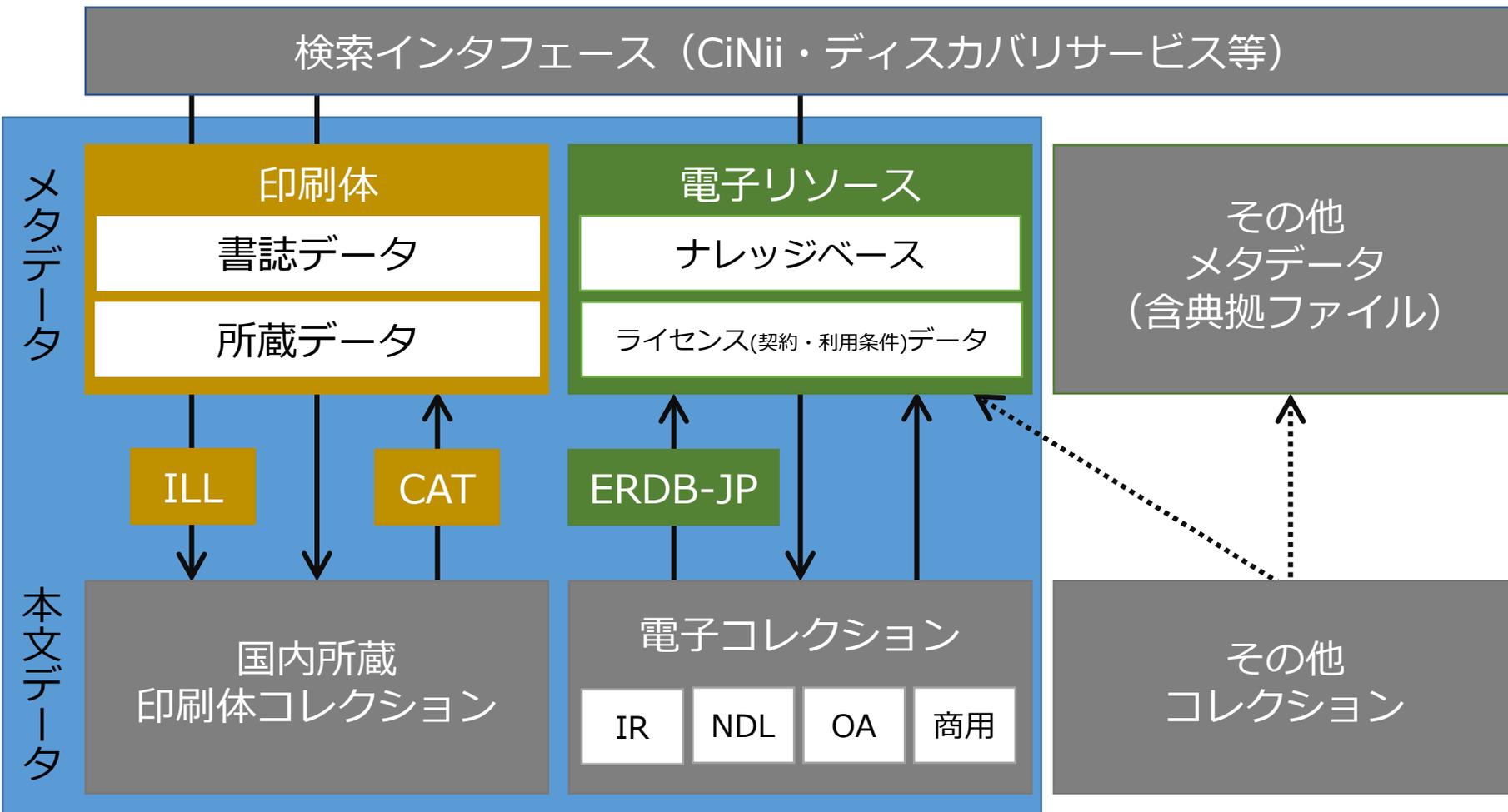
# 目次

- はじめに
- これからの学術情報システム構築検討委員会の検討の経緯
- 「これからの学術情報システム」が目指すもの、  
「これからの学術情報システム」で目指すもの

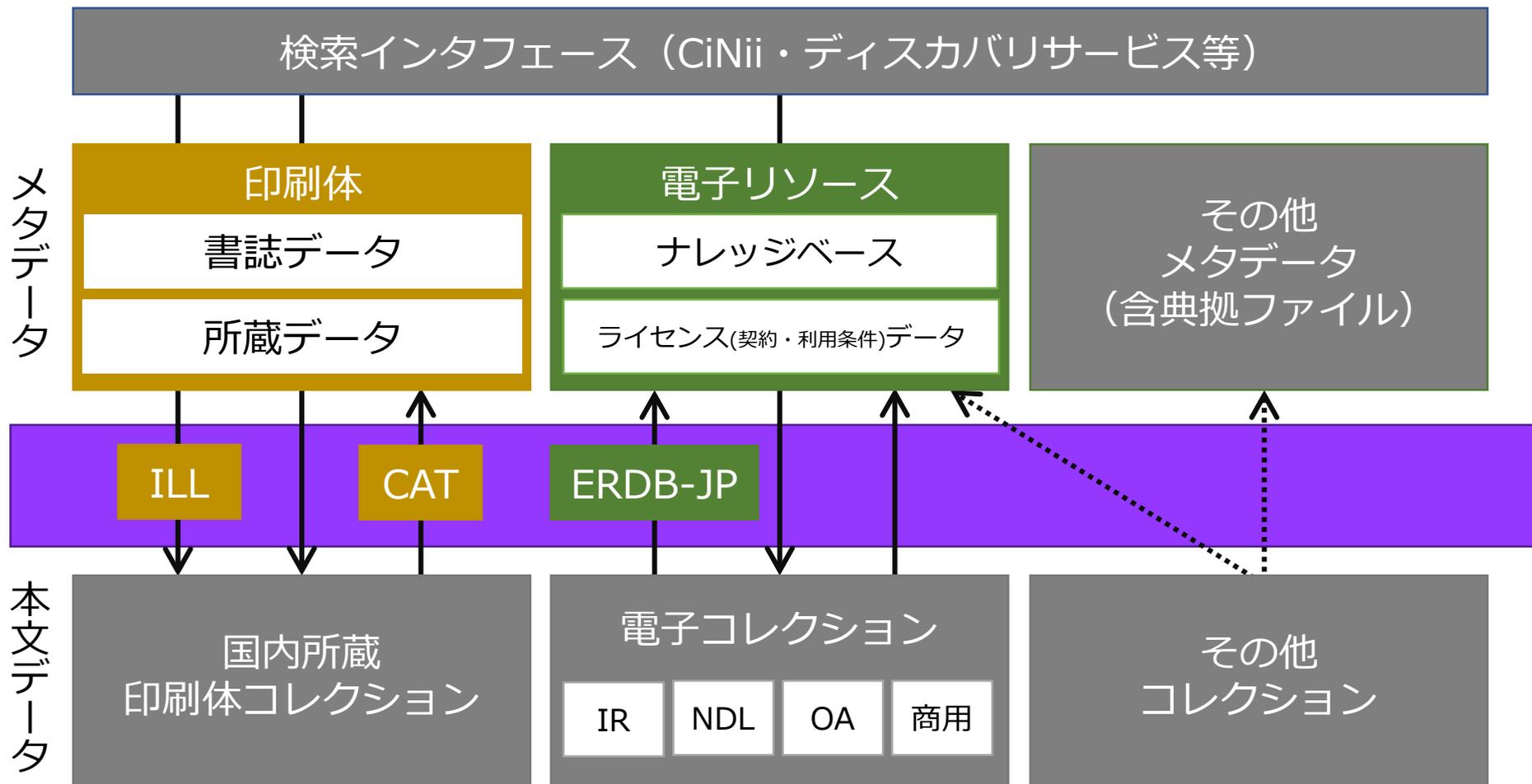
# 「これからの学術情報システム」が目指すもの、 「これからの学術情報システム」で目指すもの



# 「これからの学術情報システム」が目指すもの、 「これからの学術情報システム」で目指すもの



# 「これからの学術情報システム」が目指すもの、 「これからの学術情報システム」で目指すもの



ご清聴ありがとうございました

これからの学術情報システム構築検討委員会